

1. 単元名 『狩猟から見る日本の生態系』

2. 単元の目標

- ・生態系ピラミッドを理解し、自然環境のバランスや干渉した際の影響力などを理解することができる。 (知識及び技能)
- ・自然に親しむ中で狩猟を通して潜む問題に気付けるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・自然を愛する心情や主体的に問題解決できるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では地域に生息する動物種、身近な野生動物に関わる仕事や役割を担う人たちを教材として取り上げる。

実際に児童の暮らしている白浜町の農林水産課の職員から話を聞くことで、リアルタイムな野生動物の生息状況を学ぶことができる。また狩猟従事者の話からは狩猟が生態系へのくらい影響を与えているのかや、狩猟の必要性を学ぶことができる。動物の命をいただくことに対する道德観や倫理観を感じながら、教科書で学ぶ生態系ピラミッドの構図と身近な自然環境及び生態系との差に気づくことができる教材である。

日本における特殊な生態系、野生動物保全の歴史から問題点を整理し、今何が必要なのか、クラスメイトによつての解釈の度合いの違いなどを通して一つの事実でも複数の解釈があり、そのどれもが違いではあるが間違いではないことを理解したうえで、問題解決にアプローチしていける。

(2) 生徒観

一般的に普段の生活において野生動物との関わりは稀であり、理科の授業内で学ぶ生態系ピラミッドが理解はできても身の回りで展開されていることは認識しにくいと思われる。

また、スーパーで手に入る肉や魚は切り身や塊で売られており、普段の生活や食事を通して「命を頂く」といった意識は低いと思われる。

(3) 指導観

本単元では、まず理科の教科書で生態系について理解するところから始める。教科書的な理解ができたうえで、身近な生き物には何がいるのか白浜町の農林水産課などにインタビューなどでアプローチすることで調査、白浜町に生息する動物を生態系ピラミッドのポジションに当てはめていく。グループごとに動物ごとの生態を調べ、ディスカッションを通して教科書の生態系ピラミッドとの比較をし違いを認識させたい。

現状の自然環境のバランスはどう変化してきたのか、①野生動物保全の歴史、②狩猟の歴史、③絶滅した日本の野生動物を手分けして調べ、グループごとに発表し生態系に人がどのように干渉し影響を与え、または与えられてきたのか変遷を理解させたい。

各年号ごとにどのように自然環境と人が関わってきたのか、ゲストティーチャーとして狩猟従事者の方からどの動物種を何を目的で狩猟するのか、年間どのくらい狩猟されているの

か、今狩猟者はどのくらいいるのかなど現状について話してもらうことで、これから先私たちは自然環境に対してどう向き合い関わっていくかを考えてもらいたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性	地域に生息する動物種の生物多様性に富んでいること
相互性	人の生活と野生動物とのつながり、適度な干渉の必要性
有限性	野生動物を資源とした場合、乱獲など過干渉による生態系バランスの崩壊
公平性	今まで続けてきた環境整備を無関心により放置することで問題の先送りや未来に軋轢を生む可能性がある
連携性	地域で暮らす人たち全体で取り組むことで動物との共生が生まれる
責任性	今、自分たちが行動しなければならないことを認識すること

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

・批判的に考える力(クリティカルシンキング)

教科書に書いてあることが正しいことばかりではないことを、身近な生態系を通して理解し、疑問に思うことの大切さを認識する

・未来像を予測して計画を立てる力

過去から今までの生態系の推移を理解したうえで、何もせず教科書通りに修復が進むとしたらどうなるのかを予測し、今何が必要なのかできることを計画することで自然との共生を考える

・コミュニケーションを行う力

児童同士での考えの共有、地域の関係者との話の中から自身の考えを相手に伝え、相手の考えを受け取りコミュニケーションをとる

・つながりを尊重する態度

自身も自然の中の一部であることを理解し、人同士や自然とのつながりを尊重できる態度を育てる

・本学習で変容を促すESDの価値観

・世代間の公正

グループやクラス内で命に対する考え方の多様性を理解し許容する

・世代内の公正

自分たちだけでなく生態系との関わりは過去から未来までつながっており、それぞれ役割を果たすことで共生が持続できる

・自然環境、生態系の保全を重視する(生物多様性の尊重)

身近な自然環境、生態系を知ることによって尊重し正しいかわり方を模索する

・人権、文化を尊重する(文化多様性の尊重)

狩猟は文化であり、他地域の狩猟について知ることで理解する

・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自然の恵みとして命をいただくことに対し「いただきます」といった食に対する感謝から幸福感を感じる

・達成が期待されるSDGs

11：まちづくり

12：生産と消費

15：陸上資源

4. 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考、判断、表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
地域など身近に生息している動物や動物による私たちの生活への影響について理解している	動物と人との関わりを理解したうえで、これからの関わり方として何が必要なのか科学的に考え、判断を探求している。	主体的に取り組み、あらゆる立場から物事を捉え、問題点に気付き解決に向かおうとしている

5. 単元の指導計画(全5時間)

主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
<ul style="list-style-type: none"> 生態系を構成するピラミッドの理解 地域に生息する生き物(哺乳類を中心)をインターネットなどで調査 	参考にするサイトの紹介 身近な人への聞き込み調査	ア
<ul style="list-style-type: none"> 狩猟に携わる人の話を聞く 狩猟者、役場 	白浜町農林水産課との橋渡し 狩猟者をゲストティーチャーと呼ぶ	ア、イ
グループワーク <ul style="list-style-type: none"> 生態系ピラミッドと地元の生態系を比較して相違点や共通点をポスターにまとめる 	比較しやすいよう、調査内容を図にまとめ提示 グループごとの意見を吸い上げる	イ
グループワーク <ul style="list-style-type: none"> これから生態系が維持していくためには何が必要なのかポスターにまとめる 	学んだ内容、調査した内容の整理 個人の考え、グループの考えを大切にする	イ、ウ
狩猟に携わる人に対して成果発表、提案	役場、狩猟者等へ成果発表する場を設ける	ウ